

伊勢神宮（要約）

公式には「神宮」として知られる伊勢神宮は、日本で最も重要な神道の神社です。宮廷が太陽の神である天照大神を祀るため、2000 年以上前に創建されました。長い時をかけて、伊勢神宮は日本の精神の中心として広く認知されるようになりました。18 世紀には、1 年間に 400 万人以上の人々が伊勢へと巡礼した年もあります。

伊勢神宮は 125 の神社から成っていて、その中心となるのが「内宮（ないくう）」と「外宮（げくう）」の 2 つです。それぞれ、天照大神と、衣食住の神である豊受大御神（とようけのおおみかみ）を祀っています。これらの神たちは自然の恵みを象徴するものです。人々は、こうした神の恵みを昔からの収穫を感謝する儀式だけでなく、実際に自然環境を守る取り組みをしています。伊勢神宮の宮域林では、1923 年から 200 年に及ぶ植林計画が実施されています。

この森からの養分は五十鈴川によって運ばれ、田畑に養分を与え、最終的に海に達します。これは、伊勢志摩の田や畑、海洋生物に栄養を与えます。伊勢神宮に訪れる人も、五十鈴川の澄んだ水で儀式的に手を洗うことで、その自然の恵みを感じるでしょう。